

平成17年度 同窓会入会式

「人間として正しい生き方を」



去る二月一日、多数の同窓会関係者の参列を得て、平成十七年度秋田高校同窓会入会式が本校体育館で行われた。最初に辻兵吉同窓会会長（昭19卒）から「たくましく有能な方々を迎えうれしく思うとともに、是非新しいチャレンジを」との歓迎の挨拶があった。

『過ぎたる欲望は身を滅ぼす』という。それは、耐震偽装やライブドア事件等で頂点を極めつつある人が一気にずり落ちることから見えてくる。では、行動の原動力である欲望と、それにより身を滅ぼすという矛盾をどうするか。その限界は誰も答えを出せない。しかし、私の敬愛する方がこう述べている。『今頑張ってるっていいことが、人間として正しい生き方なのかと考えること』と。これは難しいことのように実は、親や先生やまわりの人から教えられ、我々の中にあるものだ。だから私は自分の生き方の中に考え思うことでそれを入れていこうと思ってる。秋高生は間違いない目標を達成できる。もうすぐそこに春が来る。あと少し頑張らして下さい。卒業後、同窓の先輩が皆さんの身近にいてきつと良きアドバイザーになってくれる。」という熱い励ましの言葉を贈られた。

同窓会からの記念品（三剣菱の文鎮）は、山谷浩二同窓会副会長から生徒代表の大山拓也君に贈呈された。

羽城館企画展

齋藤昇展

十三回目を迎えた今年の羽城館特別企画展は、画家の齋藤昇氏（昭和40年卒）にご協力頂きました。ふるってご鑑賞下さるようご案内致します。

期日 七月八日～八月三十一日
午前10時～午後4時
（土・日曜、祝祭日は休館）
場所 秋高同窓会館「羽城館」

企画展に寄せて
北国の孤愁を描く
激情の人
秋田高校美術科
教諭 細川 要

具象作家の登竜門「安井賞展」出品作「異邦人II」では、疎外され、よるべなき人間の本質を鋭く突いている。空間にとけ込まんとする群像。あいまいな色調、堅い表情は、エコールド・パリに生きた画家たちの喪失感が作品に深い陰翳を与えたように、世評になじみず、さまよい歩く氏の姿そのものであったのだろうか。



'04 自由美術展 嵐気楼



'95 自由美術展 異邦人

とした色彩、流れるような筆致、男・女・犬、そこには切ないまで、故郷を求めてやまない異邦人の哀しみがあふれる。絵は体の一部、という画家は多いが、絵にのめり込み、体を張って描ききる作家は少ない。齋藤昇氏はまさに画歴四十年の歳月を最前線で戦い続けた人である。自由美術協会会員・県芸術選奨受賞作家として活躍し、今や県美術界の第一人者として評価を得ているが、氏の本領は、権威に屈服せず、媚びず、人間の弱さ、優しさを描くことにある。円熟という言葉とは無縁の、ひたむきな作風を今後も期待したい。